

観音崎公園 嘴く虫マップ

公園の見所紹介や案内をしています。



日本最大のキリギリス類
ジャーという大変大きな声で嘴く。
鳴き声は500mくらい聞こえる。
花の広場のスキのところで
あたまを下にして嘴いている。
食草はスキの茎。観音崎では
花の広場周辺でしか確認されていない。



メスの産卵管が大変長いのでこの名がある。
花の広場のチカラシバ群落に生息する。
触角も大変長くシリシリと短く嘴く。
花の広場には近縁種のホシササキリ・ウスイロ
ササキリが多産するが、オナガササキリは大型
なので簡単に区別がつく。



スズムシ
鳴く虫として江戸時代より庶民に親しまれている。
野生スズムシはリーン・リーンとは聞こえないでフィリーンと風のような音色で

鳴くのでよそスズムシとは思えない。
観音崎公園と防衛大学が横須賀のスズムシの最後の砦。

マツムシ

鳴く虫の代表種。チンチロリンと金属的な音色で嘴く。
横須賀横須賀の野生スズムシの最後の砦同様、
マツムシも激減して花の広場にわずかの個体が発生する



クマスズムシ

スズムシより小型で体のつくりがスズムシのように華奢ではなく頑丈に出来ている。低い音色から始まって徐々に高音になると嘴きやむ。この金属的な響きの魅力は、通人に好まれている。

キク科の枯れた茎に大きな穴を開け、體の中に産卵する。



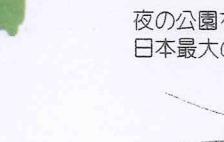
ヒロバネカンタン

リリリリーとカンタンのように連続して嘴くことなく一嘴きごとに区切って嘴く。
神奈川県では絶滅したとされていたが観音崎自然博物館のボランティア瀬長剛さんが25年ぶりに生存を確認した。それ以後周辺の人家にも広がり観音崎では普通種となっている。



クチキコオロギ

観音崎では1年中幼虫・成虫・卵を確認できる
豊かな森の林床の腐葉土の中や朽木を棲み
かにしている。そこは冬でも暖かく正月でも
フギーと嘴いている。



夜の公園を歩くとフギーと嘴き合っている音色を聞くことが出来る。
日本最大のコオロギでオスの翅は短く体長の3分の1しかない。



モリオカメコオロギ

観音崎にはオカメコオロギが3種いる。
平地の草はらにいるハラオカメコオロギ・やや湿地の草はらにいる
タンボオカメコオロギ・照葉樹林に生息するモリオカメコオロギである。
鳴き声はハラオカメコオロギよりも小さくリーリーと聞こえる。
森のロッジ側の園路に多産する。



ハヤシノウマオイ

別名スイッヂョと呼ばれる。
以前は1種だったが、せわしなくジッヂョ・ジッヂョと
嘴くハタケノウマオイとゆっくりスイッヂョと
嘴く本種とに分けられた。
花の広場から防衛大学側の園路で夜は普通に嘴いている。